科目名	単位	時間数	講義時期	講師
老左手港兴士沖录 I	-	2.0	0 左 益期	永森克志 鈴木真理子 齊藤泉
老年看護学方法論 I	1	30 2年	2年 前期	高橋佳恵 齊藤まどか

科目目的: 高齢者に多い健康障害の特徴と健康回復及び終末期における看護を学ぶ

目標 : 1. 高齢者に多い健康障害の成り立ちと臨床的特徴を理解する

2. 高齢者に起こりやすい疾患の病態生理・症状・検査・治療を理解する

3. 身体可動性障害のある高齢者に対する看護を理解する

4. コミュニケーション障害のある高齢者に対する看護を理解する

5. 認知機能障害のある高齢者に対する看護を理解する

6. 終末期にある高齢者とその家族に対する看護を理解する

教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態·疾患論 医学書院

参考文献 : 新体系 看護学全書 老年看護学① 老年看護学概論老年保健 メヂカルフレンド社

ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版

評価方法 : 筆記試験100%(永森50% 鈴木10% 齊藤・高橋30% 齊藤10%)

評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価をする

授業の進め方: 1. 1年次の解剖生理・病態学で学んだ知識がベースとなり、老化による影響を踏まえながら高齢者の健康障害について学んでいきますので、一般的な解剖生理・病態学に関する知識の復習・確認をしながら授業を受けましょう

2. 実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学んでいきます

3. 高齢者理解のための理論を紹介しながら必要な看護について学んでいきます

4.9月からの老年看護学実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します

単元:高齢者の特徴的な疾患・症状・検査と看護担当講師:永森克志単元:認知症障害をきたす疾患・要因と看護担当講師:鈴木真理子単元:身体可動性障害、コミユニケーション障害にある高齢者の看護担当講師:齋藤 泉 高橋佳恵単元:高齢者の終末期における看護担当講師:齊藤まどか

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	高齢者に	高齢者に多い健康障	12	1. 高齢者に多い健康障害の成り立ち・	
2	特徴的な	害の成り立ちと看護		臨床的特徴	
3	疾患·症	について理解する		1)摂食·嚥下障害	
4	状・検査			2)低栄養、やせ	
5	と看護			3)熱中症、脱水	
6	SALLEFONOM			4)尿失禁·便秘·下痢	講義
				5)睡眠障害(不眠)	
				6)皮膚掻痒症	
				7)浮腫	
				8)倦怠感	

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				2. 高齢者に起こりやすい疾患の病態生	
				理·検査·治療	
				1)呼吸器疾患:肺炎、慢性閉塞性疾患	
				2)循環器疾患:心不全、不整脈	
				3)消化器疾患:逆流性食道炎	
				4)脳神経疾患:脳梗塞、脳出血、パー	
				キンソン病	
				5)感染症疾患:ノロウイルス・インフ	
				ルエンザ・尿路感染症	= # 关
				6)その他:前立腺肥大症、疥癬	講義
		身体可動性障害をき		3. 身体可動性に障害をきたす疾患・要因	
		たす疾患・要因を理		1)高齢者の日常生活動作に影響を及	
		解する		ぼす原因・要因	
				(1)運動器疾患:大腿骨頸部骨折	
				変形性膝関節症	
				腰部脊柱管狭窄症	
				骨粗鬆症	
				(2)症状: 痛み・痺れ・めまい	
7	身体可動	身体可動性障害にあ	8	1. 身体可動性に障害のある高齢者の	
8	性障害に	る高齢者の看護を理		看護	
9	ある高齢	解する		1)転倒のアセスメントと看護	
10	者の看護			(1)転倒の要因	
				(2)転倒リスクのアセスメント	
				(3)転倒予防に向けた看護	
				(4)転倒した高齢者への看護	
				2)廃用症候群のアセスメントと看護	
				(1)廃用症候群の主な症状	講義
				(2)廃用症候群の早期発見・予防に向	DVD
				けた看護	2.2
				3)褥瘡のアセスメントと看護	
				(1)褥瘡の発生機序	
	コミュニ			(2)褥瘡リスクのアセスメント	
	ケーショ	2		(3)褥瘡予防と看護ケア	
	ン障害の	コミュニケーション		2. コミュニケーション障害のある高齢	
	ある高齢	障害をきたす疾患・		者の看護	
	者の看護	要因と看護について		1)高齢者に起こりやすいコミュニケー	
		理解する		ション障害の原因・症状・分類・看護	

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
11	認知機能	認知機能障害をきた	4	1 認知機能障害のある高齢者の看護	
12	障害のあ	す疾患・要因と看護		1)うつ病のアセスメントと看護	
	る高齢者	について理解する		(1)高齢者のうつ病の背景と特徴	
	の看護			(2)看護のポイント	
	1			2)せん妄のアセスメントと看護	
				(1)高齢者のせん妄	
				(2)せん妄のリスク要因と予防	
				(3)せん妄発生時の看護	
				3)認知症のアセスメントと看護	
				(1)認知症の病態と要因	
				(2)認知症をきたす疾患の診断と治療	
				①アルツハイマー病	講義
				②血管性認知症	
				③レビー小体型認知症	
				④前頭側頭型認知症	
				(3)中核症状・行動・心理症状	
				(4)認知症の評価	
				(5)看護の実際	
				①コミュニケーションの方法	
				②環境づくり	
				③日常生活ケア	
				④行動・心理症状(BPSD)への	
				対応	
13	高齢者の	高齢者の死亡に関す	6	1. 高齢者の喪失体験と死	
14	終末期に	る現状を理解する		1)高齢者の死因	
15	おける看	終末期のプロセスと		2)高齢者が体験する様々な喪失体験	
	護	高齢者の意思決定の		3)高齢者が望む「死」と「最期の場」	
		尊重について理解す		4)終末期のプロセス (4類型)	
		る		5)終末期における意思決定	講義
		エンドオブライフケ		(1)インフォームドコンセント	DVD
		アの概要を理解する		(2)事前指示書(リビングウィル)	DVD
		看取りに関わる家族		2. エンドオブライフケア	
		に対する看護を理解		1)終末期の身体徴候とアセスメント	
		する		2)合併症の予防と苦痛の緩和	
				3)日常生活の援助	
				4)終末期を支えるチームアプローチ	

単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
			3. 家族へのグリーフケア 1)家族のケアへの参加 2)適切な情報提供(目的・時期) 3)高齢者と家族が過ごす場の環境調整 4)予期悲嘆(悲嘆のプロセス:デーケン) 5)看取りを終えた家族へのケア (1)看取り時の家族への配慮 (2)セルフヘルプグループ (事後課題)レポート提出	講義
単位修	得認定試験	1	筆記試験	

<事前課題>

- 1. 老年看護学 医学書院 第4章「高齢者によく見られる身体症状とアセスメント」、第6章「健康逸脱からの回復と終末期を支える看護」の該当部分を熟読する。
- 2. 一般的な解剖生理・病態生理の復習をする。

<事後学習>

高齢者の終末期における看護 (レポート課題)

「私の死生観」について、A4 レポート用紙 1 枚程度に内容整理し、講義終了 3 日後に提出する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
老年看護学方法論Ⅱ	1	3 0	2年 前期	齊藤まどか

科目目的: 高齢者の健康上の課題を科学的根拠に基づいて判断・解決する思考過程と高齢者の生活 を支える援助技術を習得する

目標:1. 老年看護技術の特徴を理解する

- 2. 高齢者の移乗・移動に関するアセスメントを理解し、安全・安楽な援助技術を習得する
- 3. 高齢者の摂食・嚥下機能に関するアセスメントを理解し、安全・安楽な援助技術を 習得する
- 4. 高齢者の排泄機能に関するアセスメントを理解し、安全・安楽な援助技術を習得する
- 5. 高齢者の清潔保持に関するアセスメントと援助方法を理解する
- 6. 高齢者のコミュニケーション機能に関するアセスメントと援助方法を理解する
- 7. 高齢者の生活リズムに関するアセスメントと援助方法を理解する
- 8. 紙上事例による看護過程の展開を通して、高齢者と家族に対して必要な看護を導き出 す思考過程を養う

教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

参考文献 : ナーシング看護学テキスト NICE 老年看護学技術 南江堂

看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術 メヂカルフレンド社

ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版

評価方法 : 筆記試験70% 看護過程30%

評価認定 : 優 (80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可 (60点未満)の4段

階評価をする

授業の進め方:1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います

- 2. 学内演習は事前課題→講義→演習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます
- 3. 学内演習は実際の場面を想定して行いますので、看護を目指す者としての自覚と 責任を持ち、技術の向上を目指して主体的に臨みましょう
- 4. コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、看護過程演習ではプロジェクト学習を取り入れますので、積極的に参加しましょう

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	高齢者の	高齢者の特徴・老化	2	1. 老年看護技術実践に必要な要素	
	生活を支	の影響を加味した技		1)老年看護の目的・目標の明確化	
	える援助	術実践の必要性を理		2)老年看護に関する専門的知識	
	技術	解する		3)高齢者の反応に応じた対応	
		10000		4)看護師自身の看護観と技術習熟度	

回数	単	元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2			高齢者にとっての移		2. 日常生活を支える基本動作のアセス	
3			乗・移動の意義を理		メントと看護技術	
4			解する		1)移乗・移動に関する援助技術	
			移乗・移動に関する		(1)日常生活動作の評価指標	
			アセスメントを理解		(2)移乗・移動に影響する因子	
			する		(3)移乗・移動に関するアセスメント	
					(4)移乗・移動に関する看護技術	
			安全・安楽な移乗・	2	(5)学内実習	
			移動動作に対する援		①項目:片麻痺がある高齢者の車椅	
			助技術を実践する		子移乗・移動	
					②方法	
					a.事前課題	
					・ 片麻痺の動作体験	
					・DVD の視聴	
					・援助計画書に沿った技術練習	
					b.学内実習の進め方	
					・グループ内で「看護師役」「高齢者	
					役」「観察者」をローテーションす	* * *
					る	講義
					・援助計画書に沿った技術の実施	DVD
					・技術評価	学内実習
					・リフレクションシートの記載	
			高齢者の食生活に注	2	2)食事に関する援助技術	
			目する意義を理解す		(1)高齢者にとっての食事とは	
			る		(2)食事に影響する因子	
			食事に関するアセス		(3)食事に関するアセスメント	
			メントを理解する		(4)食事に関する看護技術	
			安全・安楽な食事摂	2	(5)学内演習	
			取に対する援助技術		①項目:嚥下機能が低下している高	
			を実践する		齢者の食事介助・口腔ケア	
					②方法	
					a.事前課題	
					・DVD の視聴	
					・援助計画書に沿った技術練習	
					b.学内演習の進め方	
					・グループ内で「看護師役」「高齢者	
					役」「観察者」をローテーション	

回数	単	元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5					・援助計画書に沿った技術の実施	
6					・技術評価	
7					・リフレクションシートの記載	
8			高齢者の尊厳を守っ	2	3)排泄に関する援助技術	
			た排泄援助の重要性		(1)高齢者にとっての排泄行動自立の	
			を理解する		意義	
			排泄に関するアセス		(2)老化による排泄機能の変化	
			メントを理解する		(3)排泄に関するアセスメント	
					(4)排泄に関する看護技術	
			安全・安楽な排泄に	4	(5)学内演習	
			対する援助技術を実		①項目:意識障害がある高齢者の陰	
			践する		部洗浄・おむつ交換	講義
					②方法	DVD
					a.事前課題	学内演習
					・DVD の視聴	于四人
					・援助計画書の作成	
					・援助計画書に沿った技術練習	
					b.学内演習の進め方	
					・グループ内で「看護師役」「介助者」	
					「観察者」をローテーションする	
					・高齢者役はモデル人形を使用する	
					・援助計画書に沿った技術の実施	
					・技術評価	
					・リフレクションシートの記載	
			高齢者にとっての清	2	4)清潔に関する援助	
			潔保持の意義・アセ		(1)高齢者にとっての清潔保持の意義	
			スメント・援助方法		(2)高齢者に特徴的な変調	
			を理解する		(3)清潔に関するアセスメント	
					(4)清潔に関する看護技術	
			高齢者にとってのコ		5)コミュニケーションに関する援助	
			ミュニケーションの		(1)高齢者にとってのコミュニケーシ	講義
			意義・アセスメン		ョンの特徴・意義	
			ト・援助方法を理解		(2)高齢者とのかかわり方の原則	
			する		(3)コミュニケーションに関するアセ	
					スメント	
					(4)コミュニケーションに関する看護	
	,				技術	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		高齢者にとっての生		6)生活リズムに関する援助	
		活リズムを整える意		(1)高齢者にとって生活リズムを整える	
		義・アセスメント・		意義	
		援助方法を理解する		(2)高齢者に特徴的な変調	
				(3)生活リズムに関するアセスメント	
				(4)生活リズムに関する看護技術	
9	看護過程	ヘンダーソン看護論	14	1. 紙上事例による看護過程展開演習	
10	の展開	に基づき高齢者の健		経過別:終末期	
11		康上の課題や生活上		事例:肺がんの再発・転移で緩和ケア	
12		のニードを明らかに		を必要とする高齢者の看護(70	
13		し、課題を解決する		歳代·男性)	
14		ために必要な看護を		1)学習方法	
15		導き出す思考過程を		(1)個人ワーク	
		理解する		①学習ノートの作成	
				a.発達段階·発達課題	
				b.疾患に関する解剖生理・病態生理	
				を学習し、病態関連図を作成	
				c.肺がん患者の看護	個人
				d.終末期の看護	ワーク
				②データベースの記載	グループ
				③アセスメント	ワーク
				④全体発表後の看護計画の立案	120 20
				(2)グループワーク	
				①個人ワークの学習内容(①~③)を元	
				に、全体像(関連図)を作成する	
				②看護上の課題の抽出と優先順位の	
				根拠の明確化	
				(3)全体発表	
				①全体像・看護上の課題・優先順位	
				の根拠について発表する	
				(4)リフレクションシートの記載	
				2)評価方法	
				老年看護過程演習評価表で評価する	
	単位修行	得認定試験	1	筆記試験・老年看護過程演習評価表	

<事前課題>

(高齢者の生活を支える援助技術)

- 1. 老年看護学総論 I で学んだ、老化による身体機能の変化について復習する。
- 2. 基礎看護学で学んだ生活援助技術に関する一般的知識を復習する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
小児看護学総論Ⅱ	1	3 0	2年前期	山谷敬三郎 松浦信夫 野口みどり

科目目的: 小児各期の成長発達・栄養の特徴を学ぶ

小児各期における生活の特徴を学び、その家族を理解する

子どもと親を支援するための法律・政策・母子保健について学ぶ

目標: 1. 小児各期の成長発達・栄養の評価を理解する

2. 小児各期の特性と生活を理解する

3. 小児保健の意義と動向を理解し、精神衛生・保健活動を学ぶ

教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①

医学書院

参考文献 : ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 MCメディカ出版

評価方法 : 筆記試験100%(山谷20% 松浦40% 野口40%)

評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点以上)、可(60~69点以上)、不可(60点未満)の

4段階評価とする

授業の進め方

小児看護学総論 I で作成した自身の年表に、小児の特徴と成長発達の学習内容を書き込みながら年表を完成させていきます。 また、各期の子どもの成長・発達、健康、家族、看護について学び、子どもの全体像が理解できるようにしていきます

単元: 子どもと家族を取り巻く社会	担当講師: 山谷敬三郎
単元: 子どもの成長発達	担当講師: 松浦信夫
単元: 子どもの栄養 小児各期の特徴と生活、家族アセスメント	担当講師: 野口みどり

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	小児の	小児期の成長・	12	1. 成長発達とは	講義
2	成長·発達	発達の基本的な		1) 小児看護学における発達論	DVD 視聴
3		特性を理解する		2) 小児期の発達段階の区分	「運動機能
4				3) 発達の領域	の発達」「情
				2. 成長・発達の進み方(一般的原則)	緒の発達」
				1) 方向性・順序性	「社会性の
				2) 発達の時期 3) 成熟と学習	発達」「こと
				3. 成長・発達に影響する因子	ばの発達」
				1) 遺伝的因子 2) 環境因子	「認知・思考
				4. 成長の評価	の発達」
				1) 身長・体重 2) 頭囲・胸囲	
				3) 生歯 4) 骨の発育	
				5) 思春期の身体の変化	

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5				5. 発達評価の方法	講義
6				1) 発達評価の目的	
				2) 発達評価の方法	
				6. 形態的特徴・身体生理の特徴および	
				感覚運動機能・情緒社会的機能	
				1) 新生児・乳児 2)幼児・学童	
				3) 思春期・青年期	
				7. 小児期の発達段階・発達課題に対する理論	
				1)エリクソン 2)ピアジェ	
				3)ボウルビィ	
7	小児の	子どもにとって	2	1. 子どもにとっての栄養の意義	講義
	栄養	の栄養の意義と		2. 子どもの食育	
		発達段階の栄養		3. 食事摂取基準	
		の特徴を理解す		4. 発達段階の子どもの栄養の特徴と看護	
		る		1) 乳児期の栄養	
				2) 幼児期の栄養	
				3) 学童期・思春期の栄養	
8	小児各期	各発達段階の特	8	1. 新生児·乳児	講義
9	における	徴と生活の特徴		1) 新生児の養育および看護	DVD 視聴
10	生活の特	を理解する		2) 乳児の養育および看護	小児看護入
11	徴			2. 幼児・学童	門シリーズ
				1) 幼児の養育および看護	「未就学児」
				2) 学童の養育および看護	「学童青年」
				3. 思春期・青年期の子ども	
				1) 生活の特徴	
				2) 心理・社会的適応に関する問題	
				3) 反社会的・逸脱行動	
				4) 思春期の看護	
				4. 各期の安全教育・事故防止	
12	家族の特	子ども・家族と	4	1. 子どもにとっての家族	講義
13	徴とアセスメン	もに家族として		1)家族とは 2)現代家族の特徴	
	}	の発達を理解		2. 家族のアセスメント	
		し、相互作用に		1)子どもを持つ家族のアセスメントの留意点目的	
		よって成り立っ		2)家族にとっての意味	
		ていることを理		(1) 構造的・機能的側面	
		解する		(2) 発達段階・家族の役割	
				(3) さまざまな状況の家族	

	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
14	小児と家	小児が擁護・養	4	1. 児童福祉	講義
15	族を取り	護され健やかに		1)児童福祉の歴史 2)現在の児童福祉	
	巻く社会	生まれ育つため		2. 母子保健	
		の法律や政策を		1)母子保健の歴史 2)現在の母子保健	
		理解する		3. 医療費の支援	
				1) 未熟児養育医療	
				2) 小児慢性特定疾患治療研究事業	
				4. 予防接種	
				1)予防接種の歴史 2)現在の予防接種	
				3)副反応と健康被害救済制度	
				5. 学校保健	
				1)学校保健の歴史 2)健康診断	
				3)健康相談 4)感染予防	
				5)学校保健活動の推進	
				6. 心理的発達障害	
				1)学習障害 2)広汎性発達障害	
				7. 特別支援教育	
				8. 臟器移植法	
	単位修得語	認定試験	1	筆記試験	7/-

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
母性看護学総論Ⅱ	1	3 0	2年前期	吉藤美幸

科目目的: 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を学び、母性看護の課題と役割を理解する

女性のライフステージ各期の看護を学ぶ

科目目標 : 1. 母子看護の歴史と統計からその変遷を知り、母性看護に関する組織や法律、母子保健 政策の観点から母性看護の現状を理解する

2. 母性を取り巻く環境の特徴と母性看護の現状を理解する

3. 女性のライフサイクルに与えるホルモンの影響について理解する

4. 思春期・成熟期・更年期・老年期各期の身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し 各期の看護課題及び看護について理解する

5. リプロダクティブケアについて特徴及び看護について理解する

教科書 : 系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院

参考文献 : 国民衛生の動向

評価方法 : 筆記試験 100%

評価・認定:優(80点以上)、良(70~79点)、可(60点~69以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする

授業の進め方

教科書を中心に国民衛生の動向を参考にしていきます

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
	母性看護	母性看護の歴史と		1. 母性看護の歴史と変遷	
1	の対象を	変遷を学ぶ	4	2. 母子保健統計の動向	講義
2	取り巻く	母子保健動向を理		国民衛生の動向	
	社会の変	解する			
	遷と現状				
	- u - #			a produce the same and the	
7,000	母性看護	母性看護にかかわ	5.00	1. 母性看護にかかわる組織	2000
3	に関する	る組織と法律につ	2	2. 母性看護にかかわる法律	講義
	組織と法	いて理解する			
	律				
4	母子保健	母子保健政策の現		母子保健政策の実際	
5	政策から	状を理解する	4		講義
	見た現状				
	母性看護	母性にダイナミッ	2	1. 家庭、地域社会	講義
6	の対象を	クにかかわる環境		2. 生物·社会文化的環境	
	取り巻く	について学び、今			
	環境	後の課題を考える			
		Sharper			

	ライフサ	女性のライフサ		1. 女性のライフサイクルとホルモン分	
7	イクルに	イクルと健康に	14	泌	講義
8	おける	ついて		1) 思春期女性の特徴・健康課題と	
9	女性の健	思春期の健康と		看護	
10	康と看護	看護を理解する		(1) 第二次性徴 (2)性意識・性	
11	の必要性			行動の発達 (3)月経異常 (4)性	
12		成熟期の健康と		感染 (5)人工妊娠中絶	
13		看護を理解する		2) 成熟女性の特徴・健康課題と看	
				護	
		更年期の健康と		(1) 家族計画(2)不妊症・不育症	
		看護を理解する		(3)子宮内膜症(4)子宮筋腫	
				3) 更年期女性の特徴・健康課題と	
		老年期の健康と		看護	
		看護を理解する		(1) ホルモンの変化と閉経	
				(2) 更年期症状	
				4) 老年期女性の特徴・健康課題と	
				看護	
				(1)骨盤臓器脱(2)老人性膣炎·	
				外陰炎	
14	リプロダ	リプロダクティ	4	1. 喫煙女性の健康と看護	講義
15	クティブ	ブケアについて		2. 性暴力を受けた女性に対する看護	
	ケア	学ぶ		3. HIV に感染した女性に対する看護	
	単位修得	認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
母性看護学方法論 I	1	3 0	2年前期	吉田かつえ

科目目的 : 妊娠、分娩、産褥及び新生児の特徴を理解し、それぞれの対象とその家族の看護に

必要な基礎的知識・技術・態度を身につける

科目目標 : 1. 妊娠期の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、その看護を学ぶ

2. 分娩期の身体的、精神的特徴を理解し、その看護を学ぶ

3. 産褥期の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、その看護を学ぶ

4. 妊娠、分娩、産褥期の特徴を理解し、セルフケア能力に視点をおいた看護を展開

できる能力を養う

教科書 : 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院

参考文献 : 都度紹介

評価方法 : 筆記試験 100%

評価認定:優(80点以上)、良(70点~79点)、可(60点~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする

授業の進め方

母性の看護技術を身につけます ビデオ学習や教本を活用してイメージできるようにしていきます

単元:妊娠期の看護 分娩期の看護 産褥期の看護 担当講師:多賀昌江

単元:新生児の看護 母性の特殊技術 担当講師:吉田かつえ

回数	単 元	単元目標		学習内容	授業形態
	妊娠期の看護	妊娠期の身体的 特徴、精神的特 徴、社会的特徴 を理解し、その 看護を学ぶ	6	 妊娠期の身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴 妊娠期の看護健康診査と保健指導、妊娠の診察と介助生活指導、マイナートラブルと保健指導妊娠期の栄養、分娩の準備と分娩準備教育、妊婦体操 	講義 DVD
		妊婦の援助に必要とされる基本的な看護技術を習得する	4	 学内実習 実施項目 レオポルド触診法 児心音聴取 腹囲子宮底測定 実施方法 妊婦の設定:事例 妊娠36週 妊婦シミュレーションモデルで1グループ4人で2人1組になり教員の指導のもとで実施 他のグループは、妊婦体験モデル着用で自由練習を行い、順次妊婦シミュレーションモデルで実施 	学内実習

回数	単 元	単元目標		学習内容	授業形態
				(4) 測定や触診した結果を「妊娠健康診	学内実習
				査のまとめ」用紙に記載	
				(5) リフレクションシート記載	
6	分娩期の	分娩後の身体的	6	1. 分娩後の身体的特徴、精神的特徴と分娩	講義
7	看護	特徵、精神的特		の母子に影響を及ぼす影響	DVD
8		徴を理解し、そ		2. 分娩期の看護	分娩モデ
		の看護を学ぶ		1) 基本原則、分娩開始と入院時の看護	ル教材
				2) 分娩第1期の経過と看護	
				3) 分娩第2期の経過と看護	
				4) 分娩第3期の経過と看護	
				5) 分娩第4期の経過と看護	
				3. 分娩に伴う異常の看護	
9	産褥期の	産褥期の身体的	6	1. 産褥期の身体的特徴、精神的特徴、社会	講義
10	看護	特徵、精神的特		的特徴	DVD
11		徴、社会的特徴		2. 産褥期の看護	
		を理解し、その		1) 分娩後の 24 時間の経過と看護	
		看護を学ぶ		2) 日常生活援助	
				3) 復古現象促進の援助	
				4) 母乳栄養確立のための援助	
				5) 退院に向けての保健指導	
				6) 産後の家族計画指導	
				3. 異常産褥の看護	
				4. 奇形児や子どもを亡くした母親への援助	
12	新生児の	新生児の特徴を	2	1. 新生児の生理的特徴	講義
13	看護	理解し、その看		2. 出生直後の新生児の看護	DVD
		護を学ぶ		3. 新生児の看護	
				1) 看護の基本	保育器の
				2) 保育環境 保育器の取り扱い	取り扱い
				3) 日常の看護	演示
				4) 母親への保健指導・沐浴	
		新生児のオムツ	2	4. 学内実習	学内実習
		交換を習得する	9.532	1) 実施項目 オムツ交換	To the transfer tests
		was seen and the N		(1) 学生2人1組で新生児モデル人形	
				を使い練習	
				(2) オムツ交換援助計画書に従い実施	
				(3) リフレクションシート記載	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
14	母性の特	新生児の援助に		1. 学内実習	DVD
15	殊看護技	必要とされる基	4	1) 実施項目 (新生児の看護)	学内実習
	術	本的な看護技術		沐浴 抱き方・授乳(人工栄養)	
		を習得する		「抱き方・授乳」: 新生児の抱き方	
				授乳時の抱き方	
				授乳(人工栄養)	
				排気の促し方	
				(1) 沐浴・寝衣交換・オムツ交換	
				生後2日目 女児(または男児)	
				(2) 抱き方・授乳	
				生後4日目 女児(または男児)	
				体重 2860g	
				2) 実習方法	
				(1) 2 グループに分かれ(1)、(2)を援助	
				計画書に従い実施	
				(2) 終了後チェックリスト記載	
				3) リフレクションシート記載	
	単位修得記	認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
精神看護学総論Ⅱ	1	3 0	2年前期	佐々木 美貴子

科目目的 : ライフサイクルにおける心の健康と成長発達について学び、保健医療福祉チームにおけ

る精神保健活動について学ぶ

目標 : 1. 精神保健の概念について理解する

2. 心の健康、成長、発達とそれに影響を与える要因について理解する

3. 精神保健の動向について学び、現状の問題や課題について理解する

4. 精神保健活動と看護の役割を理解する

教科書 : 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論、精神保健 メヂカルフレンド社

新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人への看護 メヂカルフレンド社

参考文献:その都度紹介します

評価方法 : 筆記試験100%

評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価

とする

授業の進め方: 1. 教科書、配布資料を基に進めていきます

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	精神保健	精神保健の概念につ	4	1. 精神保健の定義	講義
2	の概念	いて理解する		2. 精神保健の領域	
				3. 現代社会と精神保健	
3	成長·発達	成長・発達と危機的	10	1. ライフサイクルと精神保健	講義
4	と危機	状況について理解す		1)心の発達理論	
5		る		(1)ピアジュ発生的認識論	
6				(2)精神分析理論 (フロイト)	
7				(3)人格の漸成発達理論	
				(エリクソン)	
				2)成長各期の発達	
				(1)胎児期 (2)乳児期 (3)幼児期	
				(4)学童期 (5)青年期 (6)壮年期	
				(7)老年期	
				2. 危機状況と心の働き	
				1)危機とは	
				(1)危機状況	
				(2)危機の段階	
				to most platform to small face.	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				2)発達段階での危機の諸相と危機介	講義
				入	
				(1)乳幼児期 (2)学童期 (3)思春期	
				(4)壮年期 (5)老年期	
8	現代社会	現代社会における精	10	1. 生活の場と精神保健	講義
9	における	神保健を理解する		1)暮らしの場と精神保健	
10	精神保健			(1)家族の機能と家族形態の変化	
11				(2)家族における精神保健上の問題	
12				2)教育の場と精神保健	
				(1)現代の教育環境と心の健康	
				(2)学校における精神保健上の問題	
				3)職場の精神保健	
				(1)職場の環境変化と心の健康	
				4)地域と精神保健	
				(1)人間関係の希薄化と心の健康	
				(2)様々な社会問題とその様態	
				2. 医療現場における危機の諸相	
				1)発病に伴う危機状況	
				2)入院中におこる危機状況	
				(1)現代医療の意味	
				(2)現代医療がもたらす精神障害	
				①せん妄(状態像、対応)	
				②抑うつ(状態像、対応)	
				③不眠(状態像、対応)	
				3)救急医療における危機状況	
				4)終末期における危機状況	
				3. 特殊状況 (災害時) における危機の	
				諸相	
				1)危機状況の基本的理解	
				2)自然災害時の危機	
				3)性的暴力被害時の危機状況	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
13	精神保健	精神保健活動と今後	6	1. 精神保健の歴史	講義
14	活動の実	の課題を理解する		1)日本における精神保健、欧米におけ	
15	際と今後			る保健	
	の課題			2. 精神保健福祉法と医療行政	
				1)病院における医療及び保護	
				2)入院医療	
				(1)入院医療の特徴	
				(2)入院患者の処遇	
				(3)訪問看護	
				3. 地域精神保健福祉活動	
				1)目的と行政組織	
				2)各組織の役割	
				4. リエゾン精神医学とリエゾン看護に	
				ついて	
				1)リエゾン精神医学の概念と歴史	
				2)リエゾン精神看護の発達	
				3)わが国におけるリエゾン精神看護	
				師の活動	
単位修	 		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
精神看護学方法論 I	1	3 0	2年前期	宮本 和子

科目目的 :精神神経障害の特徴と主な精神疾患の原因、診断、治療について学ぶ

目標 : 1. 主な精神症状と精神疾患について理解する

2. 主な臨床検査と治療について理解する

3. リエゾン精神医学について理解する

教科書 : 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人への看護 メヂカルフレンド社

参考文献:その都度紹介します

評価方法 : 筆記試験100%

評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価

とする

授業の進め方:1. 教科書・配布資料を基に進めていきます

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	精神障害	精神に障害をもつ人	16	1. 精神症状の種類	講義
2	者の理解	を理解するための基		1)知覚の障害	
3		礎的知識としての精		2)思考の障害	
4		神症状と精神疾患を		3)思考内容の障害 (妄想)	
5		理解する		4)自我意識の障害	
6				5)感情の障害	
7				6)意欲、行動の障害	
8				7) 意欲障害	
				8)知能障害	
				9)記憶の障害	
				2. 状態像 (症状群)	
				1)不安状態	
				2)心気状態	
				3)幻覚妄想状態	
				4)抑うつ状態	
				5)精神運動状態	
				6)昏迷状態	
				7)無為、自閉状態	
				8)引きこもり状態	
				3. 中枢神経症状	
				1)巣症状	
				(1)失語 (2)運動性失語	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(3)感覚性失語 (4)身体部位失認	講義
				4. 精神障害の分類	
				1)内因性精神障害	
				(1)統合失調症 (2)躁うつ病	
				(3)てんかん	
				2)外因性精神障害	
				(1)症状精神病	
				(2)アルコール依存と薬物依存	
				(3)脳器質性精神障害	
				(4)てんかん	
				3)心因性精神障害	
				(1)神経症 (2)心因性精神病	
				4)精神遅滞	
				5)性格異常	
9	精神障害	精神に障害を持つ人	10	1. 検査	講義
10	を持つ人	に行われる主な検査		1)頭部放射線検査	
11	に行われ	治療について理解す		(1)頭蓋単純X-P(2)CTスキャン	
12	る主な検	る		(3)MR I	
13	査・治療			2)脳波検査	
				3)髄液検査	
				4)心理検査	
				(1)知能検査	
				①ウェクスラー成人知能検査	
				(WAIS)	
				②子ども用WISCではVIQ	
				PIQの差による適応障害の	
				分析	
				③鈴木ビネー式知能テスト	
				④老年用知能テスト	
				a. HDS	
				(2)人格検査	
				①質問用紙	
				a. ミネソタ多面的人格目録	
				(MMPI)	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				b. 矢田部・ギルフォード検査	講義
				(Y·G性格検査)	
				②投影法	
				a. ロールシャッハテスト	
				b. TAT (絵画統画テスト)	
				c. 文書完成テスト (SCT)	
				(3)記名力検査	
				①視覚記銘力検査	
				a. ベントン視覚記銘力検査	
				②聴覚記銘力検査	
				a. 数唱問題 b. 対語課題	
				2. 治療	
				1)身体療法	
				(1)薬物療法	
				①向精神薬 ②抗精神薬	
				③抗躁薬・気分安定薬	
				(ムードスタビライザー)	
				④抗うつ薬 ⑤抗不安薬	
				⑥認知症の治療薬 ⑥てんかん薬	
				2)精神療法	
				(1)精神分析法(2)力動精神療法	
				(3)催眠療法 (4)支持療法	
				(5)行動療法 (6)その他の精神療法	
				3)社会療法	
				(1)作業療法 (2)レクリエーション	
				療法 (3)生活療法 (4)環境療法(5)社	
				会復帰療法 (ディケアなど)	
14	精神医学	精神医学の領域との	4	1. リエゾン精神医学	講義
15	の領域と	連携、情報交換の必			
	の連携、情	要性について理解す			
	報交換の	る			
	必要性				
	単位修行	导認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
在宅看護論総論Ⅱ	1	3 0	2年 前期	櫻井美奈子 高橋都子

科目目的: 在宅看護に関する諸制度と、在宅看護展開方法の基礎知識を学ぶ

目標:1.ケアマネジメントの概念と機能について理解する

- 2. 在宅ケアを支える諸制度と社会資源について理解する
- 3. 訪問看護の仕組みと訪問看護ステーションの運営について理解する
- 4. 在宅における看護過程展開のポイントを理解する
- 5. 在宅看護における他職種との連携の必要性と実際を理解する
- 6. 在宅看護における危機管理について理解する

教科書 : 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

参考文献 : ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版

看護学テキスト NiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 南江堂

在宅看護論 実践をことばに(第6版) ヌーベルヒロカワ

評価方法 : 筆記試験 100%(櫻井 70%、高橋 30%)

評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする

授業の進め方:1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います

2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります

3. 地域医療論・社会福祉・関係法規など、在宅看護に関連する専門基礎分野の学習 内容を復習しましょう

単元:在宅看護の制度担当講師:櫻井美奈子単元:在宅看護の展開担当講師:高橋都子

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	在宅看護	ケアマネジメントの	4	1. 在宅看護の歴史	
2	の制度	意義・目的・構成・		2. ケアマネジメントの概念	
		プロセスを理解する		1)ケアマネジメントとは	
		介護保険制度におけ		2)ケアマネジメントの目的	
		るケアマネジメント		3)ケアマネジメントの構成要素	
		の実際を理解する		4)ケアマネジメントのプロセス	講義
				5)介護保険制度のケアマネジメント	
				(1)ケアマネージャー	
				(2)ケアプランの作成	
				(3)サービス担当者会議	
				6)ケアマネジメントの実際	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
3		在宅ケアに関連する	10	1. 在宅ケアを支える諸制度と社会資源	
4		諸制度と社会資源に		1)在宅ケアを支える医療保険制度	
5		ついて理解する		2)高齢者を支える制度と社会資源	
6		地域包括ケアシステ		(1)介護保険制度	
7		ムの概要を理解する		(2)地域包括ケアシステム	
				3)障害者の在宅療養を支える制度と	講義
				社会資源	
				4)難病の療養者を支える制度と社会	
				資源	
				5)子どもの在宅療養を支える制度と	
				社会資源	
8		訪問看護の目的を理	6	1. 訪問看護制度	
9		解する		1)訪問看護とは	
10		訪問看護制度の概要		2)訪問看護の利用者	
		を理解する		3)訪問看護ステーションに関する規	
		訪問看護ステーショ		程	
		ンの運営に関する内		4)訪問看護の内容	
		容を理解する		5)訪問看護の利用までの手続き	
				6)訪問看護の提供とチームケア	講義
				7)訪問看護の費用と請求	
				8)利用者が払う利用料	
				9)高額介護サービス・高額医療費など	
				の適用	
				10)公費負担医療制度の適用	
				2. 世界の訪問看護	
				3. 訪問看護の課題と今後の方向性	
11	在宅看護	在宅看護における看	4	1. 在宅看護過程の意義・ポイント	
12	の展開	護過程展開の特徴を		2. 在宅看護過程の展開方法	
		理解する		1)在宅看護過程の特徴	
				2)情報収集とアセスメントの特徴	H STILLINGSON
				3)看護計画立案の特徴	講義
				4)実施・評価の特徴	
				(1)訪問看護記録の意義	
				(2)訪問看護で使用する記録	

回数	単	元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
13 14			他職種との連携の意 義とその中で訪問看 護師が果たす役割を 理解する	4	1. 他職種との連携における看護師の役割 1)在宅における連携の特徴 2)医師との連携 3)介護保険の社会資源との連携 4)その他の社会資源との連携 5)ネットワークづくり 2. 入退院時における医療機関との連携 1)退院時の調整 (1)医療機関の看護師の役割 (2)訪問看護師の役割 (3)病院と訪問看護の連携方法 2)入院時の調整 (1)主治医との連携 (2)病院・病棟への引継ぎ	講義
15			在宅における事故発 生の背景と予防・防 止の実際を理解する 災害発生時の対応・ 看護を理解する	2	 在宅における安全性の確保 1)在宅におけるリスクの特徴 (1)薬物による医療事故防止 (2)転倒事故防止 (3)感染防止 2)災害時の在宅看護 	講義
	2	単位修復	 尋認定試験	1	筆記試験	

<事前課題>

(在宅看護の制度)

第1~2回 : 教科書 第3章 在宅看護の制度「ケアマネジメントの概念と機能」を熟読する。

老年看護学総論で学習した介護保険制度について復習する。

第3~7回 : 教科書 付章 関係法令を熟読する。

第8~10回 : 教科書 第3章 在宅看護の制度「訪問看護制度」を熟読する。

(在宅看護の展開)

第11~15回 : 教科書 第4章 在宅看護の展開を熟読する。

看護展開技術(基礎看護学)で学習した看護過程の展開について復習する。